

主 題：世に対する最高の証

聖書箇所：ペテロの手紙第一 3章8－12節

すでに学んできたことですが、クリスチャンが救われた目的、それは救いのすばらしさを人々に伝えることです。神がどんなに偉大であり救いのみわざを成し遂げられたかを伝えることです。2章11節から3章12節で、ペテロは救われた者がこの世にあってどのように生きるのかを教えています。ことば以上に私たちの行ないが大きな影響をもつからです。2：11－17では、この国にあってどのような責任を負っているのか、国のリーダーを尊敬し従ってゆくこと。2：18－25では、人に対する責任を教えています。上に立つ者に対して同じように敬い従ってゆきなさいと。3：1－7では夫婦の関係において、妻よ夫に従いなさいと、私たちはそれをすでに学んできました。

私たちのこの世にあっての責任とは何でしょう？それは主のすばらしさを世の人々に明らかにすることです。家庭においても職場においても、学校においても友人の間でも、この社会にあってどのような環境の中にあっても、みことばに正しく従って生きていくなら世に大きな証をもたらすのです。そのとき、神は私たちを通してご自身の栄光を現わし証をなしてくださるのです。ゆえにペテロは具体的にどのように生きるのかを教えるのです。

今日の箇所3：8－12で、この世におけるクリスチャンの生き方をペテロは再び繰り返して教えます。これまでの結論といっても良いでしょう。私たちがどのように生きることによって神の栄光を現わすのか、どのように神のすばらしい救いのみわざを伝えてゆくのか、見てゆきましょう。

1. 本当のクリスチャンの特徴 8－9節

8、9節には六つの特徴が教えられています。「最後に申します。あなたがたはみな、心を一つにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」と。クリスチャンは救われているからこのような行ないをするのだとペテロは言います。

1) 心を一つにする

クリスチャン同志が争うのではなく一致をするように、クリスチャンはこの地上にあって心をひとつにすることが大切なのだと思います。教会が一致を保ちつづけることの大切さを教えるのです。それは私たちが努力して一致を持とうとするのではなく、一致は神から与えられたものだから、それを壊さない、乱さないことが私たちの責任なのです。

クリスチャンはキリストのからだに属するものとされたから一人一人の言動が大切です。教会が一致することの大切さについてバークレーはこのように言います。「新約聖書全体を通して、キリスト者の一致への願いが響き渡っている。それは願い以上のもの、キリスト者はその個人的関係にあって同胞と和合して生きるものでなければ、キリスト者として生きていとはいえない。教会はその中に紛争があればキリストの教会とはいえないという告知なのである。」と。クリスチャンの間に一致がないのは世に対して証をなさないし、神の栄光を現わすことができないのです。

一致できないその原因は『罪』であることは明らかです。パウロはこのように言っています。

I コリント3：3「あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるではありませんか。」ヤコブもこのように言います。ヤコブ4：1「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。」と、争いの原因は欲望であると言います。それは自分の思い通りに生きてゆきたいという自己中心からくる思いです。救われる前の私たちはそのとおりでしたが、救われた後もそのように生きて行こうとする、その誘惑のなかにあるのです。私たちの問題は自分が変わろうとしないことです。変わる必要などない、自分は正しいのだとすることです。ピリピ2：3でパウロはこのように教えています。「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。」と。救われていてももし罪に支配されるなら、救われる前の自分に戻ってしまうのです。そして、私たちには傲慢、高ぶりが生じて来て様々な問題を生むことになるのです。

ロイドジョーンズは「私たちの間に分裂が生まれるのは私たち自身の間違っただけが原因である。ある者は生まれを誇り、自分の家族を自慢し、富みを誇り、その民族性や社会的地位や商才を自慢する。また、ある者は頭のよさや、場合によっては教理をよく知って理解していることを誇る。このような自

慢こそが分裂を起こし、引いては自分の教えていることを否定することになる。」と語っています。特にこのことばの後半に心を留めましょう。私たちは生まれながらに誇りたい者です。しかし、信仰が成長すれば自分を誇ることを止めるはずで、自分の本当のすがたを示されて行くからです。パウロも「キリストの十字架以外に誇りとするものはない。」と語っています。ただ神の恵みだけが誇りだったので、それが信仰の成熟したもの、おとなです。

群れにあって大切なことは、「私は神が与えてくださった一致を乱す者にはなりたくない」とすることです。悪魔は私たちの一致を好みません。神が望んでおられることをいつも求めて行くこと、それが私たちの正しい態度です。

2) 同情し合う

これは「同じ心を持ちなさい」ということです。兄弟姉妹と同じものを分かち合うのです。パウロはこのように言います。

ローマ 12:15, 16 「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思っははいけません。」

3) 兄弟愛を示す

クリスチャンが互いに愛し合ってゆくなら大きな証を世に対して成すのです。イエスはこのように教えられました。

ヨハネ 13:34, 35 「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。35 もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」。「新しい戒め」とあります。神が命じておられることは、互いに愛し合って行くことです。どのような「愛」でしょうか？神が私たちを愛してくださったその愛です。その愛をもって私たちが互いに愛し合って行くようにと教えるのです。なぜでしょうか？それが世の人々に大きな証であるというのです。ヨハネはこのように言います。

I ヨハネ 4:20 「神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。」。まず、私たちが兄弟愛を示して行くことです。神は私たちにそのように働かれるからです。

4) あわれみ

心の優しい人です。エペソ 4:32 に「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」とありますが、この「あわれみ」は「心の優しい」と同じことばが使われています。この最高の模範はイエスです。イエス・キリストは私たちを愛し、行動で示されました。そして、弟子たちにも「あわれみ」について教えられました。マタイ 18章にあります。21節から兄弟が私に罪を犯したとき、何度までゆるすべきかを問うたペテロに対して、「七度を七十倍するまで」といわれ、そのたとえを話されました。

23～「このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。王はそのしもべたちと清算をしたいと思った。24 清算が始まると、まず一万タラントの借りのあるしもべが、王のところに連れて来られた。25 しかし、彼は返済することができなかつたので、その主人は彼に、自分も妻子も持ち物全部も売って返済するように命じた。26 それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします。』と言った。27 しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった。28 ところが、そのしもべは、出て行くと、同じしもべ仲間、彼から百デナリの借りのある者に出会った。彼はその人をつかまえ、首を絞めて、『借金を返せ。』と言った。29 彼の仲間は、ひれ伏して、『もう少し待ってくれ。そうしたら返すから。』と言って頼んだ。30 しかし彼は承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げ入れた。31 彼の仲間たちは事の成り行きを見て、非常に悲しみ、行って、その一部始終を主人に話した。32 そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦してやったのだ。33 私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』34 こうして、主人は怒って、借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。35 あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。」

私たちは心の優しい人に変えてくださいと神の助けを求めることです。それはクリスチャンだけでなく神を知らない人々への忍耐ある愛を示すことでもあるからです。

5) 謙遜

うぬぼれや傲慢、思い上がりでないことです。イエスは山上の説教の初めに「心の貧しい者は幸いです。」と言われました。これは自分の本当のすがたを知っている人のことです。自分は救われる価値な

どないことを知っている人のことです。箴言 29 : 23 には「人の高ぶりはその人を低くし、心の低い人は誉れをつかむ。」とあります。

6) 祝福を与える人

9 節に「悪をもって悪に報いず、」とあります。これはことばと行為の両方において、人の為す悪に対して仕返しをしないことです。相手がだれであってもそのようにしなさいと言うのです。救いにあずかったなら私たちは人々に祝福を与える者になって行くのです。神は私たちをそのような者に変えてくださったのです。また、仕返しをしないのです。これはイエスご自身が実行されたことです。

I ペテロ 2 : 23 「ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。」とイエスはこのように生きたことを教えています。パウロもペテロもイエスの教えだからそれを私たちに教えるのです。ローマ 12 : 17, 19 「だれに対してでも、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。…愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。』」。

そして、「侮辱をもって侮辱に報いず」とは、馬鹿にされ侮辱を受けたとしても仕返しをしないということです。かえって、「祝福を与える」のです。「祝福を与える」とは「良いことを言う」という意味です。悪口を言い返したり、陰で言うのではなく、かえって彼らの上に祝福があるように求め続けるのです。また、「敵のために執り成しの祈りを捧げる、彼らに善行を為し、彼らのことを褒める」ことが含まれています。けんかや仕返しをするのは簡単です。しかし、そうではなく平和を求めるのです。けんかをしたり、仕返しをもくろんでいるときの心には平安も喜びもありません。自分自身がしんどく辛いことです。

その理由が次に書かれています。「あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」と。私たちは祝福にあずかる者として救われたのです。ゆえに人々に祝福をもたらすのです。これはイエスの生き方そのものです。

a) 人に対して悪をいっさい行わない、かえって彼らにとって善を行なう。

b) 人々の必要に応えた。

c) 人々の悲しみ、苦しみ、痛みをともにした。

d) 人々を慰め励ました。

イエスが律法学者やパリサイ人を戒めることは彼らへの愛の行為にほかなりません。ですから、私たちがこれらの教えを実行して行くことはイエス・キリストの証のためなのです。「人が変えられる」こと、これこそ大きな証です。それを成してくださるのは神です。神は私たちを変えてくださるのです。私たちが「変えられる」ことを望み、神に助けをいただきながら歩むなら、そのように神はそのように変えてくださるのです。

しかし、これらのことに対して私たちがしてはならないことを覚えましょう。

a) 私にはむつかしい、不可能だとあきらめてしまうことです。しかし、神がしてくださることによって神の栄光が現わされるのです。神は私を変えてくださると神に期待することです。「あきらめる」ことは、自分の力でしようとする、そして、不可能だと神の力を否定する不信仰です。神の命じられたことを拒まない、「私には無理だ」と言わないことです。神の力によってできると希望をもって対することです。

b) また、悪い感情に支配され続けられないことです。悪い感情にずっと支配され続けていると行動にまでまがった影響を及ぼします。感情が冷静さを奪うときは問題です。悪い感情が起こったときは、それから離れることです。そして、罪が示されそれを告白することによって、その感情から解放されます。

c) 罪に対して妥協しない。私たちは「これは（たとえば短気など）生まれながらの性質だから」とか、育った環境のせいだからと容認してはいないでしょうか？それは罪です。いかなる小さな罪にも染まらないように、常に自分の心を吟味することです。神は私に罪を示してくださり、私が変わることを願っておられるのです。

⇒これらの六つの特徴はクリスチャンの生き方だと教えています。このような人物に神は私たちを変えてくださるのです。そのことを求めて私たちは神に助けを乞うことが大切です。

2. これらの真理を旧約聖書を用いて証します。 10 - 12 節

「いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押えて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、悪から遠ざかって善を行ない、平和を求めてこれを追い求めよ。主の目は義人の上に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。しかし主の顔は、悪を行なう者に立ち向かう。」と、これは

詩篇 34 : 12-16 の引用です。

12 いのちを喜びとし、しあわせを見ようと、日数の多いのを愛する人は、だれか。

13 あなたの舌に悪口を言わせず、くちびるに欺きを語らせるな。

14 悪を離れ、善を行なえ。平和を求め、それを追い求めよ。

15 主の目は正しい者に向き、その耳は彼らの叫びに傾けられる。

16 主の御顔は悪をなす者からそむけられ、彼らの記憶を地から消される。

祝福をいただくためには、

1) まず、神に願うこと 10 a 節

「いのち」とは永遠のいのちだけでなく、この地上での生活も表わします。それが神によって豊かに祝されるようにと言います。「幸いな日々」は何も問題がない状況ではなく、どのようなことがあっても常に心が喜びで満たされている状態です。これらは世の何ものをもって成しえないことです。神だけが与えることのできる平安、それを神は私たちに与えようと言われるのです。また、「思う者」とは願う者です。一つの目標や願いによってその心が支配され続けて行くことです。次にその実践です。

2) 実践 10 b - 11 節

a) ことばに関する注意

ここには「舌」「くちびる」とあります。パウロは言います。

○悪を言わない。エペソ 4 : 29 に「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」とあるとおり、悪いことばをいっさい口からださないことです。「悪いことば」とは信仰の成長を妨げるようなことばです。私たちは人々の信仰が成長するのに役立つようなことばを口にするべきだと教えるのです。

また、人の悪口を言わないことです。ヤコブ 4 : 11 ではこのように教えています。「兄弟たち。互いに悪口を言い合ってははいけません。自分の兄弟の悪口を言い、自分の兄弟をさばく者は、律法の悪口を言い、律法をさばいているのです。あなたが、もし律法をさばくなら、律法を守る者ではなくて、さばく者です。」と。

○偽りを言わないことです。嘘から自分の口を守るのです。

b) 行ないに関する注意

○悪から遠ざかる。どんな悪からも離れることです。

○善を行なう。道徳的に正しく、また人にとってプラスになること、すなわち主の前に喜ばれることを行なうことです。

○平和を求めてこれを追い求める。争いや分裂分派を起こす者にならないことです。それらに神の祝福はありません。このようなことが起こって、その人を戒めても悔い改めないなら戒規ということになります。マタイ 18 : 17 に「それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人か取税人のように扱いなさい。」とイエスの教えが書かれています。これは教会に大きなダメージを与えるからです。彼らの誤りを戒めるべきです。罪を改めるように神のみことばに従って導くことです。争いがあればそこに平和をもたらすように、また、不平不満をもつ信者がいれば、みことばからその人の過ちを正してあげることです。自分から積極的に平和を作り出す人を主は喜ばれます。マタイ 5 : 9 に「平和をつくる者は幸いです。その人は神の子どもと呼ばれるからです。」とイエスは教えておられます。

3) 約束された主の祝福とのろいを覚える 12 節

a) 「主の目は義人の上に注がれる。主の耳は祈りに傾けられる。」と、主が目を注ぎ耳を傾けられるのは、主が喜ばれることを行なっているからです。

b) 「しかし、主の顔は、悪を行なう者に立ち向かう。」と、これはさばきのことです。詩篇 34 : 16 「主のみ顔は悪をなす者からそむけられ、彼らの記憶を地から消される。」と続きますが、これは神に従わない者への「さばき」の約束です。

☆ 私たちの選択

1) キリスト者＝神のみこころに従う生き方により、主に喜ばれ、栄光を現わし、そして、主からすばらしい祝福をいただいて生きるか、それとも自分の思いのままに生きるかの選択です。

2) 未キリスト者＝神の呪いを、さばきを受ける道を歩み続けているのです。それで良いのでしょうか？

この地上をどのように生きるのか、それによって神の栄光を現わすことを学んできました。私たちの正しい選択によって、今日を生きてゆくことを考え、そして、すばらしい主を証してゆきましょう。